



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社フジタコーポレーション
 コード番号 3370 URL <http://www.fujitacorp.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤田 博章
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 清水 清作

TEL 0144-84-8888

四半期報告書提出予定日 平成28年2月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	3,859	△9.3	88	58.8	64	287.7	58	—
27年3月期第3四半期	4,255	△12.5	55	70.0	16	—	△39	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	59.26	—
27年3月期第3四半期	△42.69	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
28年3月期第3四半期	4,011	—	17	—	0.4	—	16.02	—
27年3月期	4,324	—	△57	—	△1.3	—	△58.17	—

(参考)自己資本 28年3月期第3四半期 17百万円 27年3月期 △57百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年 3月期の業績予想(平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,305	△6.3	129	15.1	81	37.1	62	332.8	63.50

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期3Q	1,072,400 株	27年3月期	982,200 株
28年3月期3Q	79 株	27年3月期	79 株
28年3月期3Q	984,417 株	27年3月期3Q	926,498 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間のわが国経済は、政府の経済・金融政策により、企業収益や雇用環境等は緩やかに回復基調が続いております。しかしながら、中国をはじめとするアジア経済の減速や円安による輸入原材料の高騰等、依然として先行きは不透明な状況にあります。

飲食業界におきましては、個人消費の持ち直しにより緩やかな回復傾向にあるものの、企業間の顧客確保の競争は激しさを増しており、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような経済状況のもと、当社の各店舗におきましては、お客様のリピート率の向上のために商品・サービス店舗内外の環境の維持管理に努めるとともに、販売管理費等のコストコントロールを継続し、集客と収益改善の両立を目指してまいりました。

当第3四半期会計期間末における当社の展開業態及び稼働店舗は18業態79店舗（前年同四半期末、20業態89店舗）となりました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高3,859百万円（前年同四半期比9.3%減）となり、売上原価及び販売管理費等の適正管理に努めた結果、営業利益88百万円（同58.8%増）、経常利益64百万円（同287.7%増）となりました。また、特別利益に投資有価証券売却益47百万円を計上したものの、不採算店舗の閉店に伴う店舗閉鎖損失30百万円等の特別損失を計上したことにより、四半期純利益58百万円（前年同四半期、四半期純損失39百万円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 飲食部門

当第3四半期累計期間における飲食部門におきましては、フランチャイジー事業においてはフランチャイズ本部主導の期間限定商品の販売及び販売促進活動を、オリジナルブランド事業におきましては、旬の食材を使用した季節限定商品の訴求を継続し、リピーターの獲得に努めてまいりました。両事業共にスマートフォンを利用した限定商品にターゲットを絞った販売促進活動が定着してまいりました。

飲食部門の当第3四半期会計期間末の店舗数は67店舗（前年同四半期末70店舗）となり、当第3四半期累計期間の売上高は3,122百万円（前年同四半期比4.1%減）、セグメント利益96百万円（同15.5%減）となりました。

② 物販部門

当第3四半期累計期間における物販部門におきましては、飲食部門と同様にフランチャイズ本部主導による商品及びサービスの提供や販売促進活動に加えて、来店顧客向けの店内イベント開催や、季節に合った商品訴求のための売場づくり等に力を入れてまいりました。

物販部門の当第3四半期会計期間末の店舗数は12店舗（前年同四半期末19店舗）となり、当第3四半期累計期間の売上高は736百万円（前年同四半期比26.3%減）、セグメント損失8百万円（前年同四半期、セグメント損失58百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期会計期間末における流動資産は1,052百万円となり、前事業年度末に比べ38百万円増加いたしました。これは主に商品及び製品が44百万円減少したものの、売掛金が61百万円、現金及び預金が30百万円増加したこと等によるものであります。固定資産は2,959百万円となり、前事業年度末に比べ351百万円減少いたしました。これは主に投資その他の資産のうち、投資有価証券が179百万円、有形固定資産の建物が98百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は4,011百万円となり、前事業年度末に比べ312百万円減少いたしました。

（負債）

当第3四半期会計期間末における流動負債は990百万円となり、前事業年度末に比べ177百万円減少いたしました。これは主に1年内返済予定長期借入金が91百万円、短期借入金が83百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は3,004百万円となり、前事業年度末に比べ209百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が182百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、3,994百万円となり、前事業年度末に比べ387百万円減少いたしました。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産合計は17百万円となり、前事業年度末に比べ74百万円増加いたしました。これは主に、第三者割当増資により資本金及び資本準備金がそれぞれ19百万円、四半期純利益の計上により、繰越利益剰余金が58百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は0.4%（前事業年度末は△1.3%）となりました。

(3) 業績予想等の将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成27年5月20日の「平成27年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、平成26年4月に策定した経営改善計画に基づき、不採算店舗の閉店及び譲渡を行った結果、前年同四半期に比べ10店舗減少し、当第3四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べて9.3%減少したものの、販売管理費の徹底した削減や設備投資の抑制を継続し、着実に収益改善を進めてまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間において、四半期純利益58,332千円を計上し、また、第三者割当増資を行った結果、当第3四半期会計期間末現在の純資産は17,176千円となり、債務超過を解消いたしました。

しかしながら、当社の有利子負債は3,374,381千円と総資産の84.1%を占め、手元流動性に比して高水準であるため、取引金融機関から返済条件の緩和を継続して受けている状況にあります。こうした状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、以下の通り当該重要事象等を解消するための対応策を実施しているため、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められません。

事業面におきましては、平成26年4月に策定した経営改善計画に基づき、ブランドを問わず、季節や期間限定商品やサービスの訴求、スマートフォン向けのアプリやクーポンを使用した販売促進活動等の営業面、店舗の内外を清潔に保つことや販売管理費等のコスト削減等の運営面とを両立させ、経常利益64,278千円(前年同四半期287.7%増)、四半期純利益58,332千円(前年同四半期、四半期純損失39,554千円)と着実に収益力の改善が図られております。今後も引き続き経営改善計画を遂行してまいります。

また、資金面におきましては、当社の主力取引銀行の支援のもと、取引金融機関に対し、平成28年5月までの長期借入金元本の返済条件の緩和継続を要請し、取引金融機関から同意を頂いており、経営改善計画の確実な遂行により、その後も継続的な支援を受けられる見込みであります。

当該金融支援と経営改善計画の着実な実行により、財務体質の改善を図るとともに、経営基盤を強化し、より安定的な営業利益・営業キャッシュ・フロー並びに当期利益の獲得を予定しております。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	413,382	443,999
売掛金	247,939	309,838
商品及び製品	204,235	160,016
原材料及び貯蔵品	51,785	62,367
その他	107,742	87,707
貸倒引当金	△11,100	△11,100
流動資産合計	1,013,985	1,052,828
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,357,872	1,259,639
工具、器具及び備品(純額)	154,012	128,400
土地	573,649	573,649
その他(純額)	48,077	39,843
有形固定資産合計	2,133,612	2,001,533
無形固定資産	148,007	147,559
投資その他の資産		
投資有価証券	256,303	76,640
長期前払費用	17,936	7,446
敷金及び保証金	726,663	692,204
その他	28,121	33,634
投資その他の資産合計	1,029,025	809,924
固定資産合計	3,310,645	2,959,017
資産合計	4,324,631	4,011,846
負債の部		
流動負債		
買掛金	155,471	172,917
短期借入金	471,021	387,541
1年内返済予定の長期借入金	205,746	114,326
未払法人税等	12,204	11,200
店舗閉鎖損失引当金	7,716	—
資産除去債務	19,885	5,200
その他	296,365	299,437
流動負債合計	1,168,409	990,623
固定負債		
長期借入金	3,035,678	2,852,948
資産除去債務	6,337	6,354
その他	171,332	144,743
固定負債合計	3,213,347	3,004,046
負債合計	4,381,757	3,994,669

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	410,667	430,015
資本剰余金	70,216	89,564
利益剰余金	△574,091	△515,758
自己株式	△53	△53
株主資本合計	△93,261	3,767
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	36,135	13,409
評価・換算差額等合計	36,135	13,409
純資産合計	△57,125	17,176
負債純資産合計	4,324,631	4,011,846

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
売上高	4,255,024	3,859,299
売上原価	1,554,290	1,372,649
売上総利益	2,700,733	2,486,649
販売費及び一般管理費	2,644,956	2,398,063
営業利益	55,776	88,586
営業外収益		
受取利息	331	7,140
受取配当金	2,706	2,401
不動産賃貸料	122,322	134,024
受取保険金	2,970	1,199
その他	5,346	8,736
営業外収益合計	133,677	153,503
営業外費用		
支払利息	64,783	63,617
不動産賃貸原価	104,504	113,370
その他	3,588	823
営業外費用合計	172,876	177,811
経常利益	16,578	64,278
特別利益		
資産除去債務戻入益	1,000	—
投資有価証券売却益	—	47,702
特別利益合計	1,000	47,702
特別損失		
固定資産売却損	—	13,685
固定資産除却損	309	1,251
店舗閉鎖損失	21,515	30,690
社債償還損	17,291	—
契約解除損	10,725	—
特別損失合計	49,841	45,628
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△32,262	66,352
法人税、住民税及び事業税	7,291	8,019
法人税等合計	7,291	8,019
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△39,554	58,332

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年12月25日付で、株式会社ベビーフェイス他1名から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ19,347千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が430,015千円、資本準備金が89,564千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	飲食	物販	四半期損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	3,255,147	999,876	4,255,024
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	3,255,147	999,876	4,255,024
セグメント利益又は損失(△)	114,390	△58,613	55,776

(注) セグメント利益又は損失(△)は、損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	飲食	物販	四半期損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	3,122,511	736,787	3,859,299
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	3,122,511	736,787	3,859,299
セグメント利益又は損失(△)	96,671	△8,084	88,586

(注) セグメント利益又は損失(△)は、損益計算書の営業利益と一致しております。